

## 1. 教育目標

豊かな感動体験を通して友だち同士育ち合い生きる力を育む

## 2. 本年度の領域別重点目標と園評価の記録

### 【領域別重点目標】

#### ①保育・教育活動の充実

- ・(幼)子どもたちが、主体性を発揮しながら没頭して遊べる環境づくり
- ・(乳)乳幼児期の発達にふさわしい環境づくり

#### ②職員の育成と資質向上や運営

- ・職員一人一人が研修を通じて意欲的に保育に取り組み、チーム力の向上につなげる。

#### ③架け橋プログラム

- ・架け橋期についての理解と推進

#### ④地域に開かれた園づくり

- ・保護者への丁寧な対応や、地域・各関係機関との連携強化

### 【園評価の記録】

- ・職員の自己評価(12月) ※「高知県教育・保育の質向上ガイドライン(改訂版)」の活用
- ・保護者アンケート(2月)
- ・園評価(3月)

## 3. 評価項目の達成状況

4段階評価 【4】十分達成した 【3】概ね達成した 【2】半分以上達成 【1】不十分

	評価項目	結果	考 察
①	子どもたちの主体的・対話的な学びを実現するための保育の展開	【3】	取組指標は2.5、成果指標は2.7で総合評価は2.6であった。乳児部と幼児部とで各々で設定したが、成果指標では乳児部が3.0であったのに対して、幼児部では2.2であった。特に乳児部での数値が前年度よりも0.7ポイント上回っており、0才～5才までを見通した研修体制や研修内容を構築したことが大きいと思われる。
②	記録の工夫を行うと共に、幼児理解に基づいた評価を図る	【3】	取組指標、成果指標は共に2.7で、総合評価も2.7であった。前年度よりも0.5ポイント上回った。事例研修と園内研修を組み合わせることにより、幼児理解の視点とともに、実践化に向けての方向性が明確になったことによるものと思われる。
	同僚性を活かした学び合いの場になる園内研修の実施	【2】	取組指標は、2.3、成果指標は2.5で総合評価は2.4であり、総合評価は前年度より0.5ポイント下回る結果となった。クラス担任と担任外とでその差異が大きくなっていた。園内研修への参加の頻度が影響しているものと思われる。また、園内研修が自己の保育力の向上に役立っているようだが、チームとしての問題意識化に課題が残る結果となった。
③	地域の小学校と「架け橋プログラム」への共通理解	【3】	取り組み指標は2.8、成果指標は2.3で総合評価は2.5であり、総合評価では、前年度より0.6ポイント下回る結果となっている。0～5才までを見通したプログラムへの理解については深まってきているが、これまでの取り組みの域を出ていない感がある。架け橋期における小学校との意識の違いや小学校側からの提案等が乏しい実態がある。
④	保育の意図や幼児一人一人の育ちについて保護者と共通理解を図っていく	【3】	「保護者への対応」は2.7、「育ちの発信」は2.8、「懇談の機会等の工夫」2.7で、「クラス便りの工夫」は2.6であった。前年度よりも0.5ポイント向上しており、特に乳児部での数値がより高い傾向にある。チームとしての情報共有やその機会を確保する工夫に改善が必要である。
	地域に発信する子育て支援の充実(未就園児対象)	【3】	子育て支援の充実についての取り組みが、担当者だけでなく、個々の関わりや協力体制など検討していかなければならない。

## 4 よりよい幼児期の教育を行っていくための改善策

「主体的・対話的な学びを実現するための意図的な手立てとは 一幼児理解に基づいた評価を通して考える」の研究テーマを継続し、引き続き保育の質の向上に努めていきたい。

また、担任とそれ以外の各クラスの関わる職員との間で、評価が分かれる傾向は今年も続いている。チーム保育の視点から個々の力量を高めていくことや、計画一実践一評価の一連の活動が常態化し、子どもの育ちあるいは保護者からの情報が、共有化されていくような環境づくりに力を注ぎ、組織的な取り組みへと繋げていきたい。

令和6年度 本園の重点目標と評価項目・評価指標 (評価結果)

学校法人沢田学園 みさと幼稚園

領域	今年度の重点目標	評価項目（具体的方策）		評価指標				分析・考察			
				取組指標		結果	成果指標		結果		
① 保育・教育活動の充実	（幼）子どもたちが主体性を発揮しながら没頭して遊べる環境づくり	子どもの主体的・対話的な学びを実現	幼児	4 幼児の自由な発想を生かしながら、探究心を持って遊べる環境づくりを子どもと共につくっている	2.0	4 まわりからの刺激を受けて夢中になって遊び、自分の世界を広げながら友達と共に目的に向かって探究し、遊びの続きを楽しみにしている	2.2	本年度も乳児・幼児に分けて重点目標を設定したことで、取組や成果を発達に合わせて連動させることができ、めざす方向性がより明確化されたといえる。 昨年度と比較して、幼児部の成果指標が0.6ポイント下回る結果となった。これに対し、乳児部では取組、成果ともに0.6～0.7ポイント上回っていた。 乳児部では発達の道筋をとらえた保育展開がなされていることに起因しているように思われる。幼児部では、探求心をもって遊べる環境づくりなどの面で課題が残る結果となった。			
				3 遊びの中で幼児が心動かされる体験を丁寧に読み取り、幼児活動のよき理解者として臨機応変に環境を作り直している		3 試したり、発見したり、友達と試行錯誤を繰り返しながら思いを共有し、それぞれの考えを伝え合い、遊びを発展させている					
				2 各年齢の発達や個人差を踏まえ、個と集団がそれぞれの育ちに必要な体験ができる環境づくりができている（見守り、励ます、手伝うなどベストな支え方を探る）		2 発達過程に必要なトラブルや葛藤体験、自己調整などの体験をしながら、友達との関係が深まり、友達と遊ぶことの楽しさを味わっている					
				1 保育者や友達と好きな遊びを楽しむ環境づくりができるように工夫している（室内、園庭）		1 自己発揮をしながら伸び伸びと遊びを楽しんでいる					
	（乳）乳児期の発達にふさわしい環境づくり	するための保育の展開	乳児	4 乳児期から幼児期に向けた自発的な学びや育ちを培う、発達の道筋をとらえた保育を展開している。	2.9	4 子ども自身が主体的に遊びを取捨選択できる環境の中で、心ゆくまで楽しんでいる	3.0				
				3 保育者が信頼関係を築き、個々の子どもたちに応答的にかかわりながら、子どもの意思や主体性を大切にできる環境構成や援助を行っている		3 自分でできたという体験を積み重ねていく中で自己肯定感が育まれ、心身の発達につながっている					
				2 保育者の温かい眼差しのもと、一人一人の乳児の月齢や発達に合わせて、環境を変化させ再構成している		2 発達にあった環境のもと、保育者との愛着関係の中で心地よく満たされて遊んでいる					
				1 乳児が安心して安全に過ごせる環境づくりに取り組んでいる（室内、園庭）		1 情緒が安定し、楽しく過ごしている					
② 職員の育成と資質向上や運営	職員一人一人が研修を通じて意欲的に保育に取り組み、チーム力の向上につなげる	記録の工夫を行うと共に、幼児理解に基づいた評価を図る		4 評価した結果を踏まえて環境を再構成する	2.7	4 互いの記録を持ち寄り、環境を再構成し、改善することによって、遊びの広がりや子どもの変容を実感し、保育の楽しさややりがいを実感することができるようになった	2.7	取組・成果ともに、昨年度よりも0.5ポイント上回る結果となった。環境を再構成するや子どもの内面理解などへの評価が多く、子どもの記録（動画）などを通した研修の成果が表れているともいえる。ただ、担任外の評価の低さが気にかかる。			
				3 記録を幼児理解に基づいて評価する		3 それぞれの子どもたちの学びや、楽しんでいること、これから必要とする体験等、子どもの内面への気づきについて、理解を深めることができるようになった					
				2 創意工夫しながら記録をとり活用する		2 それぞれの遊びの場面に応じて、写真、動画、webマップを活用することによって、個々の子どもたちの育ちと課題が見え、記録をとることの大切さを感じるようになった					
				1 効果的な記録のとり方を考える		1 それぞれの遊びの場面において、多様な記録のとり方を考えることができるようになった					
		同僚性を活かした学び合いの場になる園内研修の実施		4 月4回以上	2.3	4 自己とは違った考えやアイデアに触れ、同僚性を発揮しながら話し合うことで、ひとつのチームとして問題意識を持ち、取り組むことができるようになった	2.5	研修回数の面で昨年度より0.8ポイント下回る結果となっている。担任外の参加の機会が少なかったことが影響しているのかもしれない。情報・取組の共有と実践の一体化のためにも工夫ある改善をしていきたい。自己の保育力の向上やチームとして取り組みに一層の視点をあて研修を重ねながら職員のスキルアップ向上に努めていきたい。			
				3 月3回程度		3 園内研修で学んだことが自己の保育力の向上や、やりがい、喜びに繋がっていくようになった					
				2 月2回程度		2 研修に自ら学ぼうとする姿勢で参加し、温かな雰囲気の中で自身の考えや意見を伝えることができるようになった					
				1 月1回程度		1 先輩や同僚と園内研修を実施することで、自己の課題に気づき取り組むようになった					
③ 架け橋プログラム	架け橋期についての理解と推進	地域の小学校と『架け橋プログラム』への共通理解		4 『架け橋プログラム』実施にむけた、公開保育や合同研修会を通した学びの連続性についての職員間の共通理解	2.8	4 幼児期の育ちや学びを小学校へつなぐ、互惠性のある接続に向けた体制づくりに取り組めるようになった	2.3	昨年度より取組で0.3ポイント下回っているが、0～5歳の全てが架け橋期にかかるプログラムであることの理解は園内で図られているように思われる。成果の面では0.7ポイント下回っている結果となった。本園と2小学校では互惠性のある関係性をこれまで大切にしてきた経緯があるが、公開保育が実施できなかった面が影響しているものと思われる。情報交換や交流だけのレベルからの転換を図るためにも、小学校との理解・協力を深めていきたい。			
				3 幼小連携・接続を意識した幼児と児童の交流活動の計画と実施		3 小学校と互いの育ちの評価を交流シートに記録することで学びの可視化ができ、相互理解が深まることに繋がっていった					
				2 幼小連絡会や丁寧な就学にむけた引継ぎ会等の情報交換		2 卒園児の学校生活の様子や、子ども達のスムーズな就学を目指した情報交換を行うことができるようになった					
				1 園内研修において『架け橋プログラム』についての理解とフェーズ確認		1 小学校との連携・円滑な接続への理解と共に、自園の取り組みのフェーズの確認ができるようになった					
④ 地域に開かれた園づくり	保護者への丁寧な対応や、地域・各関係機関との連携強化(子育て支援・家庭支援)	保育の意図や幼児一人一人の育ちについて保護者と共通理解を図っていく		○ 連絡帳や懇談などを通して、一人一人の育ちを伝えていくきめ細やかな保護者への対応（支援への共通理解・各関係機関への繋ぎ）		○ 保護者に親しみを持って対応し、相談や要望、突発的な問題について丁寧に対応できるようになった (4)十分達成した (3)概ね達成した (2)半分以上達成 (1)不十分	2.7	昨年度と比較して0.3～0.6ポイント上回る結果となっている。保育のねらいや子どもの育ちの様子が伝えられるようなクラス便り等の発信に努めることができたように思われる。 各関係機関への対応についても一人一人の育ちを把握しながら連携を図ることができた。引き続き細やかな対応を継続していきたい。			
				○ 育ちのドキュメントの発信		○ 個々の子どもたちの発達を見通すと共に、その育ちや成長していく姿を写真等を使い工夫して伝えることにより、喜びややりがいを感じるようになった (4)十分達成した (3)概ね達成した (2)半分以上達成 (1)不十分	2.8				
				○ 子どもの育ちがみえる行事や保育参観、保護者参加や懇談の機会の工夫や検討		○ 保護者の多様性を理解し、積極的に保護者とコミュニケーションをとることにより、園への理解と協力体制が深まった (4)十分達成した (3)概ね達成した (2)半分以上達成 (1)不十分	2.7				
				○ 保育の意図が伝わるクラス便りの工夫、ブログ等の積極的な発信		○ 子どもたちの育ちの姿を発信すると共に、保育の意図や願いを織り込みながら保護者に伝えることができるようになった (4)十分達成した (3)概ね達成した (2)半分以上達成 (1)不十分	2.6				
				地域に発信する子育て支援の充実（未就園児対象）			○ 子育て相談による親支援		(4)十分達成した (3)概ね達成した (2)半分以上達成 (1)不十分	2.7	子育て支援事業などの活用を通して、職員間での協力が図られるよう努めていきたい。
							○ 子育て支援事業の発信				
							○ 未就園児教室の企画及び開催				